

わたし 私のゆめ

URL : <https://youtu.be/K7-h5j5cJIQ>

今回は「私のゆめ」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。
後半は少しだけ速く（+20%）なり、漢字にふりがなはありません。
学習にお役立ててください。

■私のこと

私の名前は渡辺亮です。今は大学生で、しょうらいは学校の先生になりたいとおもっています。子どものころから人に何かを教えることが好きで、学校でも友達に勉強を教えることがよくありました。友達が「分かった!」と言ってくれると、私もとても嬉しくなりました。そんなけいけんから、先生という仕事にきょうみを持つようになりました。
私の家族は父、母、妹の4人です。家族ですごく時間がとても大切で、週末にはみんなで食事をしたり、買い物に出かけたりしています。特に父は私のゆめをおうえんしてくれて、たくさんのアドバイスをくれます。父も学生のころは先生になりたかったと聞いて、私もがんばりたいと思うようになりました。
大学では日本語やれきしを中心に学び、しょうらいにむけてじゅんびをすすめています。日本語では伝える力を、れきしでは日本の文化や出来事を学び、それを教える方法を考えています。こうした勉強を通して、ゆめに少しずつ近づいていると感じています。
今回は、私が学校の先生になりたいと思った理由や、そのゆめをかなえるために今どのようなことにとりくんでいるかについてお話ししたいと思います。

■ゆめを持ったきっかけ

私が先生を目指すようになったきっかけは、中学生のころの先生との出会いでした。その先生はとても親しみやすく、いつもせいと一人ひとりに向き合ってくれる方でした。じゅぎょうのときも、ただ教科書の内容を説明するだけでなく、私たちがりかいてできるようにわかりやすく教えてくれました。ときには楽しい話も交えながら、勉強に対するきょうみを持たせてくれる先生でした。その先生のおかげで、もともとあまりとくいではなかった科目も少しずつわかるようになり、勉強が楽しいと思えるようになりました。

特に、先生はいつもせいとの話をしんげんに聞いてくれました。勉強だけでなく、しょうらいのことやなやんでいることにも耳をかたむけ、私たちが考えやすいようにいっしょに考えてくれるそんざいでした。そのため、学校が楽しい場所だと感じられるようになり、「私もこんな風に誰かをささえられるそんざいになりたい」と思うようになりました。

さらに、家族との会話も私のゆめに大きなえいきょうをあたえました。特に父は、私が「先生になりたい」と話すと、いつもおうえんしてくれました。父も若いころは先生を目指していたことがあるらしく、教えることの楽しさや、子どもたちと関わることのいぎについて話してくれました。その話を聞くうちに、先生というしょくぎょうがどれほどやりがいのあるものかを感じ、私もその道を目指そうとけつuisるようになりました。

このようなけいけんから、私の中で「先生になりたい」というゆめが生まれました。そして、いつか私も多くの子どもたちのささえとなり、成長を見守れるそんざいになりたいと強く思うようになったのです。

■私のゆめ

私のゆめは、いつか学校の先生になり、多くの子どもたちに勉強の楽しさを伝えることです。私が目指しているのは、ただ教科書の内容を教えるだけでなく、子どもたちが「わかった！」と感じられるじゅぎょうをする先生です。自分が中学生のころに出会った先生のように、分かりやすく、そして楽しさを感じられるじゅぎょうを通して、勉強に対するきょうみを持ってもらいたいと思っています。

また、先生としてただじゅぎょうを行うだけでなく、子どもたちの心によりそえるそんなざいでありたいと考えています。勉強はもちろんですが、それ以外のなやみや不安も話せるような関係をきづくことができれば、子どもたちにとって学校が安心できる場所になると信じています。中学のころの先生がそうしてくれたように、私もせいとたちにとって心のささえとなれる先生になりたいとおもっています。

さらに、私は日本のれきしや文化にもきょうみがあり、それを子どもたちといっしょに学びたいと考えています。日本のれきしには多くの学びがあり、それが今の私たちの生活にもつながっています。れきしの中にはたくさんの人々のどりよくや思いがつかまっており、それを伝えることも先生の役目だと思っています。子どもたちにとって、れきしがただのねんごうや出来事ではなく、人々の思いやねがいがつまったものだと感じられるようなじゅぎょうを目指したいです。

しょうらい的には、ただの「教える人」ではなく、子どもたちといっしょに学び、成長できる先生でありたいと思っています。じゅぎょうを通して子どもたちの成長を見守りながら、じぶんじしんも成長していくことが、私の目指すりそうのすがたです。先生という仕事には責任がともないますが、それ以上に大きなやりがいと楽しさがあると信じています。このゆめをかなえるために、これからもどりよくをつづけていきます。

■ゆめに向かうための小さなもくひょう

私のゆめである「学校の先生」になるために、まずは少しずつできることからとりくんでいます。毎日の勉強がそのひとつです。特に国語やれきしといった教えるために必要なちしきをふかめるようにしています。大学のじゅぎょうや図書館の本を活用し、いろいろなしてんから学べるように心がけています。

また、コミュニケーションの力も大事だと感じているので、友人や家族とせっきよく的に会話するようにしています。しょうらい、せいとたちと向き合い、しんらいされる先生になるには、自分の言葉でしっかりと気持ちを伝えられるようになることが大切です。そのために、話し方や聞き方をくふうしながら、自分の伝えたいことが相手にしっかりとどくようにいしきしています。

さらに、きょういくじっしゅうにむけてじゅんびをしています。きょういくじっしゅうは、じっさいにきょうしつで子どもたちにせつするたいせつなきかいです。そこで少しでも子どもたちの気持ちによりそえるよう、きょういく方法や心理学についてのほんよを読んでいきます。また、だいがくのせんぱいからばなしをきいたり、じっさいにけんがくにいじぶんじぶんせんせいに見学に行ったりして、自分なりに先生としてのすがたをイメージするようになっています。

小さなことかもしれませんが、これらのつみかさねがたいせつだと感じています。いっぽずつですが、自分のむくひょうにちか近づいているじっかんがあります。日々のどりょくがしょうらいの自分につながると信じて、少しずつでもゆめに向かっています。

■いまのがんばり

いまわたしは「がっこうのせんせいになる」というゆめに向かいて、ぐたいてきなこうどうをつづけています。まず、だいがくでのべんきょうをたいせつにしています。特に、こくごやれきしのじゅぎょうでは、せんせいとして必要なちしきをみにつけるように心がけ、じゅぎょうちゅう中にせっきよく的にしつもんをしてりかいをふかめています。また、きょういくに関するせんもんしょをよんだり、せんせいのおしのかたについてまなぶこうぎにもさんかするようにしています。これらのかつどうとおすこずつ「おしちから」をみにつけていると感じています。

さらに、おしのかたをれんしゅうするために、ゆうじんかぞくきょうりよくにじぶんまなぶが学んだことをわかりやすくせつめいするれんしゅうもしています。例えば、むずかしいことばをつかわずにかんたんにせつめいするれんしゅうをすると、あいてはんのうを見て自分のおしのかたのあぜん点がわかります。こうしたけいけんが、しょうらいせいと向き合うときのあじしんにつながるとかんじています。

また、きょういくじっしゅうにそなえて、せんせいとしてのけいけんをつむために、かつどうボランティア活動にもさんかしています。ちいきのこどもたちとかわり、べんきょうを教えるサポートをしたり、いっしょにあそぶかつどうをつうじて、こどもたちとのせつし方や話しかたのまなぶを学んでいます。こどもたちとすぶす中で「この子たちにもっとたくさんのおしを教えてあげたい」という気持ちが強くなり、さらにせんせいになりたいというおもいがふかまっています。

このように、まいにちすこずつですが、自分のゆめに向かいてぐたいてきにとりくんでいます。ゆめを実現するためにはながみちのりがあると感じますが、いまのどりょくが必ずあらい未来につながると信じて、日々がむらいつづけています。

■こんなんとの向き合い方

ゆめを追いかける中で、私は多くのこんなんに直面しています。その中でも特に大変なのは、時間の管理です。大学の勉強にくわえて、先生になるためのしきをふかめるための自主学習やきょういくじっしゅうのじゅんびもあり、毎日やるべきことが山ほどあります。最初はすべてをこなそうとしてつかれはててしまいましたが、今では無理をせず、少しずつ計画的にすすめることを心がけています。これにより、こうりつよくとりくむことができるようになり、あせらずにつづけられるようになりました。

もう一つのこんなんは、きょういくじっしゅうへの不安です。じっしゅうでは、じっさいに子どもたちの前に立ってじゅぎょうを行わなければなりません、初めてのけいけんであるため、自分の教え方で本当に子どもたちがりかいしてくれるのかという不安がありました。自分の伝えたいことがうまく伝わるかどうか心配で、自信を持つことがむずかしいと感じることもあります。この不安をこくふくするため、家族や友人に協力してもらい、じゅぎょうのれんしゅうをしています。彼らからフィードバックをもらうことで、少しずつ自信がついてきました。

さらに、子どもたちとどうせつするべきかについてもなやむことが多いです。子どもたちは一人ひとりことなる性格や考え方を持っており、全員にてきせつに対応するのはかんたんではありません。そのため、きょういくに関する本を読み、子どもの心理をりかいるための勉強もしています。また、きょういくじっしゅうのけいけんしゃに話を聞いて、さまざまな場面での対応の仕方を学んでいます。このように学びをふかめることで、少しずつですが、子どもたちによりそえる自分になりたいという思いが強まっています。

こんなんに直面することはつらいことですが、ゆめをかなえるためにこれらのしれんを乗り越えることが大切だと思っています。毎日少しずつ成長し、自分のもくひょうに向かってすすんでいくことで、自分の自信がつみ重なっていくのを感じます。このけいけんが、しょうらい先生になったときに必ず役立つと信じ、これからも前向きにちょうせんをつづけていきたいと思っています。

■ゆめがかなったときの私

私のゆめがかない、学校の先生になったとき、私はどんな先生でありたいのかをよく考えます。まず、私が目指すのは、子どもたちが「わかる！」と感じられるじゅぎょうをする先生です。私が中学生のころに出会った先生のように、子どもたちが勉強を楽しみと思えるように教えたいです。子どもたちが自分の力でわかりできるようにサポートし、勉強が好きになれるように心がけたいと思っています。

また、先生として教えるだけでなく、子どもたちにとってたよりにできるそんざいでもありたいと考えています。勉強以外のなやみや不安も話しやすいふんいきを作り、学校が安心できる場所になるようつとめたいです。学校生活の中で、子どもたちが自分らしくいられるように、ときにはいっしょに笑い、ときにははげまし合える関係をきずきたいと思っています。

さらに、私は日本のれきしや文化をふかくりかいし、それを子どもたちといっしょに学びたいと考えています。れきしの中には、たくさんの人々の思いやどりよくがつまっており、それを子どもたちに伝えることも先生の大切な役目だと思っています。ただのちしきとしてではなく、れきしを通して人々の思いを学ぶことで、子どもたちが社会やたにんへの関心をふかめられるようなじゅぎょうをしていきたいです。

ゆめがかなったとき、私はただの「教える人」ではなく、子どもたちと共に成長する先生でありたいと思います。子どもたちの成長を見守りながら、じぶんじしんも学びつづけることで、よりよい先生になれると信じています。そして、このゆめをかなえることで、私じしんがずっと思いえがいてきたりその自分に近づけると感じています。

■ゆめに向かってどりよくすること

ゆめを持つことは、毎日の生活に希望やもくひょうをあたえてくれる大切なものだと思います。私が「先生になりたい」というゆめをいだいたことで、自分の成長や新しいちようせんへのいよくが高まりました。ゆめをかなえるための道のりはけっしてかんたんではありませんが、小さな一歩一歩が積み重なって、自分をささえる大きな力になります。

みなさんも、日本語の勉強をつづける中で、たくさんのちょうせんやこんなんに出会うことがあるかもしれません。勉強はときにむずかしく感じることもありますが、あきらめずに少しずつすすんでいくことが、やがて大きな成果にむすびつくと信じています。ゆめやもくひょうがあるからこそ、毎日のどりよくが意味のあるものになり、自分をささえる力になります。

私も先生になるゆめに向かって日々どりよくをつづけていますが、みなさんと同じように、まだまだ学びのとちゅうです。お互いにゆめを持ち、それに向かってがんばることで、いつかそのゆめが現実になる日が来ると信じています。みなさんが日本語学習やほかのゆめに向かってぜんしんしつづけるすがたを、私もおうえんしています。

ゆめは、すぐにはかなわないことも多いですが、あきらめずにどりよくしつづけることがとても大切です。これからもいっしょにがんばっていきましょう！

「私のゆめ」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Easy Japanese-listening-SUSHI